

広報紙「よりよいかかわりを求めて」は、一宮市や各学校で取り組んでいるいじめ対策について、保護者の皆様に知っていただき、力を合わせて安心・安全な学校をつくっていくことをねらいとして発行しています。

★いじめ等対策主任者会を開催★

市内各校のいじめ等対策主任の力量向上と各学校の取り組み推進を目指して、11月14日（火）に尾西生涯学習センターにおいて、第2回いじめ等対策主任者会を開催しました。いじめ対策推進委員長の中島小学校 栗本孝弘 校長からは、バレーボールの大林素子選手の実話を例に挙げ、「いじり」と「いじめ」の線引きは難しいが、されている方がつらく、嫌だと感じたら「いじめ」であり、自分がふざけて投げかけた言葉を相手がどう受け止めるか、相手の気持ちをよく考えなければいけないと指導・助言がありました。また、一宮警察署生活安全課 スクールサポーターの田中正夫様より、ネットいじめに関する話を、実例を交え、具体的に教えていただきました。ネット犯罪が大変多くなっており、スマートフォンの使い方次第で被害者にも加害者にもなり得るので使い方に気を付けてほしいと伝えられました。



各部会からの報告より



① 調査部より

<道徳的判断力の実態調査から>

（市内小学校6年生、中学校2年生を抽出して調査）

「ネット上に携帯やスマートフォンなどで他人の悪口を書き込むことはいけないことだと思う」という質問に対し、小中学生ともに「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と回答した割合は99%でした。しかし、生徒のトラブルの中でSNSに関するトラブルが増えていることも事実です。今後も、当事者意識をもたせ、命に関わることであることをしっかり伝えていく必要があります。また、児童生徒だけでなく、保護者の方へも注意を促していく必要があります。

② 子ども支援部より

いじめ等対策主任を中心に、各学校で『全校で取り組む「いじめについて考える」話し合い活動』、『よりよい人間関係づくりのためのコミュニケーション技術向上の活動』に取り組んでください。

また、話し合い活動・コミュニケーション技術向上の活動を充実させるため、指導展開例やワークシート等を作成しています。昨年度の話し合い活動実践後の感想で、「SNSに関するものを提案してほしい」という意見があり、今年度は以下のように、小学校高学年と中学生版指導展開例を作成しました。

高学年用「見た目や性別、文化のちがいを

中学校用「中学生のスマートフォンの

使い方について考えよう」

③ 広報・研修部より

8月7日（月）に尾西生涯学習センターにおいて、「夏季集中研修講座 いじめ対策研修会」を開催し、小・中学校に分かれ、事例をもとにグループ協議を行いました。どの先生方も「自分がその学級担任だったら」という視点で、意見交換をしました。また、すぐに取り組めるいじめ対策教材として、校内研修編では宮城県インターネット広報資料室の「いじめ対応」、教室での活用編では「NHK for School」の「いじめをノックアウト」や文部科学省の「いじめに対する理解を促す動画教材」を紹介しました。

グループ別情報交換・話し合い

いじめ等対策主任者会において、小・中学校がグループに分かれ、以下の(1)～(3)について情報交換や話し合いをし、その後、情報共有を行いました。

- (1) 生活アンケート後の対応方法やその後の活用について
※ 各校の取り組み状況
- (2) いじめの未然防止に対する取り組みについて
※ 「話し合い活動・コミュニケーション技術向上の活動」の指導展開例の活用
※ 各学校で教員研修などで取り組んでいること
- (3) いじめ等対策主任としての苦勞や心がけていることについて



【情報共有の様子】

小学校でも度々SNSトラブルが起きている。児童生徒に対して自分が加害者にならないための使い方の指導をしていきたい。



昨今、学校での対応が難しいいじめも増えてきている。場合によっては、警察に相談するケースも増えてきた。生活アンケートも月1回実施している。悩みの有無に限らず、すべての生徒と面談をしている。

身体測定時の保健教育の時間に、養護教諭が人とのかわり方やSNSに関して考えるきっかけを与えている学校があり、継続的な取組が、いじめの未然防止につながっていると感じた。

また、生活アンケートを回収した後、学年で交換し、読み合い、共有している学校もある。時間はかかっても有効であると思う。



【いじめ等対策主任者会を終えて いじめ対策主任の感想より抜粋】

- ・ 中学校区で様子を伝え合う時間は大切だと思った。「いじめは、その人の人生に深く刺さるものである」と子どもたちに伝えていきたい。
- ・ スクールサポーターの方の話から、スマホは使い方次第で簡単に加害者にも、被害者にもなり得ることを、改めて子どもたちに伝えていかなければと思った。気軽に使うものであるからこそ、文書の入力、写真の送信を慎重にしなければならないことを子どもたちに考えさせたい。
- ・ 人間関係力の乏しさから起こるトラブルが日常的にあり、相手のことを考えた言葉にすれば、トラブルに発展しないケースも多い。学校でも、人間関係力の育成に努めていきたい。

一宮市主席スクールカウンセラー 関口 恵子先生より

授業での話し合い活動を通して、子どもたちが自分の気持ちの変化や辛さ、嬉しさを共有しながら、自分の中に基準をきちんともつことが大切であるし、いじめ問題の解答の一つになると思っている。これから人権週間が始まる。せっかくのチャンスなので、いじめというのは、その行動が良いか悪いかということだけではなく、人と人のそれぞれの人生に深く刺さってくるものなんだ、一度刺さったらなかなか抜けないものなんだということを子どもたちに伝えてほしい。

